

THE HOKURIKU INDUSTRIAL ADVANCEMENT CENTER

HIAC NEWS

ハイアック・ニュース

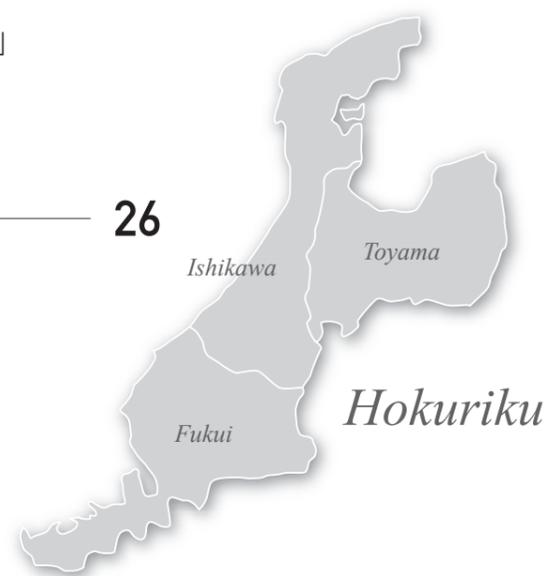
一般財団法人 北陸産業活性化センター会報誌

vol. **94**



INDEX

巻頭言 「会長就任のご挨拶」	01
平成26年度調査・研究事業報告会 「北陸地域の製造業における中小企業の現状と課題」	02
第1部 調査報告 第2部 基調講演	
平成27年度 事業計画書	07
平成26年度 事業報告書	09
北陸ライフサイエンスクラスター推進室 活動報告	19
HIAC TOPICS/財団事業の取り組み紹介について	21
<ul style="list-style-type: none"> ■産業技術総合研究所技術普及講演会 ■平成26年度 第2回コンバートEV事業化研究会 ■平成26年度 第4回次世代ロボット研究会 ■講演会「人工知能・スーパーコンピュータはここまで来た！」 ■講演会「インダストリー4.0およびIoTの最新動向と展望」 ■その他の報告 	
賛助会員ズームアップ #25 株式会社北國銀行	26



表紙画像

スターランドさかだに (福井県大野市)
大野盆地を見渡す高原にあるスターランドさかだには、農業体験や自家栽培のそば粉を使ったそば打ち体験ができる。夏には約一万本のヒマワリが畑一面に広がる。

会長就任のご挨拶



一般財団法人
北陸産業活性化センター

会長 久和 進

このたび、北陸産業活性化センター会長に就任いたしました。

我が国経済はおおむね回復基調にあるようです。北陸地域においても待望の北陸新幹線が金沢まで開業し東京圏が近くなったことで、観光など交流人口の飛躍的な伸びによりこれまでにないにぎわいが見られています。

しかし、東京一極集中や少子化による地方の大幅な人口減少が危惧され、国においても地方創生が大きなテーマとなっております。東京一極集中の流れを止め、地方創生を何としても実現させなければなりません。明治以来150年続いた大きな歯車の動きを止め逆転させる必要があり、生易しいことではないと感じております。

幸い北陸地域は住みやすさで全国屈指であり、社会基盤もかなり整備されてきています。夫婦共稼ぎにより世帯収入が多く、地方としては比較的豊かな地域ではないかと考えております。

目指す地方創生のカギは、地方での産業の発展であり、その結果としての雇用の確保で

す。北陸地域はそのポテンシャルを備えています。「北陸地域は地方創生のモデルになりうる地域だ」とおっしゃる方もいらっしゃいます。

北陸産業活性化センターは、1987年(昭和62年)の設立以来、北陸地域の産業振興・発展に寄与すべく活動してまいりました。現在、調査研究事業、R&D推進・研究助成事業、プロジェクト支援事業などに取り組んでおります。更に、北陸ライフサイエンスクラスター事業については、総合調整機関として取り組んでおり、本年度は5年計画の3年目にあたります。北陸の産業クラスター形成を目指して、北陸地域の関連企業の皆様のご協力を得ながら進めてまいりたいと考えております。

地方創生が叫ばれている今、改めて当財団の果たすべき役割は大きいと考えております。今後とも北陸地域の産業活性化のため、積極的に事業活動を展開してまいり所存でございます。

皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成26年度調査・研究事業報告会 「北陸地域の製造業における中小企業の 現状と課題」～北陸の「元気」な中小製造業～

当財団では、北陸地域の製造業の中小企業の現状把握及び、いわゆる「元気な」中小企業は、どのような経営方針、設備投資、研究体制、人材育成、産学官金連携、補助金制度の活用を行っているかを明らかにすべく、調査・研究事業として取り組み、その報告会を開催しましたので、概要をご紹介します。

◇開催日：平成27年6月2日(火)

◇プログラム：第1部 調査報告

◇開催場所：金沢都ホテル

第2部 基調講演

◇参加人数：50名

第1部 調査報告

「北陸地域の製造業における 中小企業の現状と課題」に関する 調査及び研究

株式会社日本経済研究所
常務執行役員 佐藤 淳 氏



北陸の製造業の概況

北陸3県の製造業で出荷のウエイトが大きいのは生産用機械、電子部品、繊維の3つであり、なかでも稼いでいるのは、富山県はファスナー、機械、医薬品が強く、石川県はハイテク繊維、機械、建設・鉱山機械、福井県はハイテク素材、ジャージ・スポーツウェア、さらには飛行機までハイテク繊維が使われており、特に炭素繊維クラスターが象徴的である。

次に、中小企業従業者数の比率だが、北陸は中小企業に勤める方が8～9割で、大企業に勤める方が少ない。これは、東京を除いた全国どこの地域もあまり変わらない。最近では、東京は良いという話をよく聞かすが、ただ大企業のサラリーマンがいるだけで、本当の意味でのクリエイティブな活動をしている比率は、この中小企業比率が高いところではないかというのが個人的な実感である。

また、生産性の伸び率についても大都市圏はマイナス、地方圏はプラスであり、実際に分析してみると、実は地方圏の方が本質的な経済成長をしているのが最近の傾向である。

中小企業の従業員特化係数は、石川県及び福井県は繊維産業が非常に高くなっている。昔は、下請け的な色もあったが、今ではかなり独立色が強くなっている。

小松市のクロダレースという会社は、レースの女性用インナーを作っているが、日本から唯一パリの展示会に出展している。加賀友禅由来の伝統のセンスというものが、おそらくヨーロッパ発祥のランジェリーにも活かされているのであろう。トリンプでもワコールでもない地場の産業が活躍しているわけだ。

中小企業には100年続くようなファミリー企業も多い。北陸地域は、ファミリービジネスや伝統的な地場産業が盛んであり、長寿企業の輩出率は全国的に高い。

また、現在有効求人倍率が、高度成長期及びバブル

期に次ぐ高い水準となっている。北陸の製造業においても、どこにいても人手が足りず、労働人口の減少が進んでいる。

意識調査(アンケート調査)

続いて、北陸3県の製造中小企業に実施したアンケート調査の成果を紹介する。

まず、ここ3年間での売上と利益の傾向は、従業員数30人以上の企業の方が30人未満の企業より増加しているという回答の比率が多い。主要製品の販売先では、機械系は、直接製品として販売することが少なく、完成品メーカーあるいは1次サプライヤー、2次サプライヤーへの販売がほとんどであった。一方、食品・繊維は、卸・小売系に販売しているところが多くみられた。昔、北陸が産地華やかな頃、メーカーやサプライヤーへの納入がほとんどであったということを見ると、かなり業界構造は変わったといえる。ハイテクだったりデザインだったり、それぞれ商法は違うが、かなり独立志向に踏み出している。

それから、経営に大きな影響を及ぼしている外部環境については、取引先からの合理化でありコストダウンという要求への対応が大変だ、という回答が多く、非常に苦勞されているようだ。一方で、経営上の課題というものもコストダウンであるが、自社が持つ強みとなる経営資源は、一転してコスト競争力というよりも独自の技術力であるという回答が多くみられた。新規展開の面では、半分強が新たな事業分野の実施検討をしているところであり、どのようなことをしているかということ、環境・エネルギー関連、医療という回答が非常に多く、続いてここ10年くらいの代表的なテーマである航空・宇宙関連が入ってきている。

では、問題は何かということ、人材であり、ほとんどの企業が指摘している。人材の確保・育成の以前に、そもそも人が足りず、人手不足が非常に深刻化している状況である。特に小さい企業ほど非常に懸念にあふれている。事業への影響はリアルに工期が遅れたり、生産量が減少したりという影響も出てきて、事態はどんどん悪くなっていると心配される。

そのような中で、女性を活用しようという動きもある。企画開発や外国語を活かせる部門で女性の雇用が進んでいる。更に高齢者の活用についても、教育的な立場から訓練指導をお願いしたいという回答が増えており、注目が集まっている。

また、企業が人手を確保するために行っている事といえば、新卒者の採用と中途採用であるが、小企業は新卒者の採用のウエイトが低い。

では、どういう人材を確保したいかということ、生産現場での技能工や熟練工など将来の経営を支える人材を求めている、企業側の人材への要求はかなり高度化してきている。

その上で課題は、賃金水準であり、続いて新卒者に対する自社の認知度の低さという回答も多く、新卒者の採用は難しいようだ。人材育成にあたっての課題は、教育の時間的余裕がなく、民間の研修会を活用し育成に取り組んでいるとの回答が多かった。

元気な中小企業の特徴と将来の課題

いくつかの企業の先進的な事例をもとに3つのポイントにまとめた。

①時代を先読みし、果敢に先手を打つこと。

航空機産業への進出事例では、(株)高林製作所は県内中小企業の3社連携による一貫生産体制を確立、認定も取得し、航空機部品のひとつの勢力として認知された上で活動しているケースである。

【航空機分野進出】(株)高林製作所

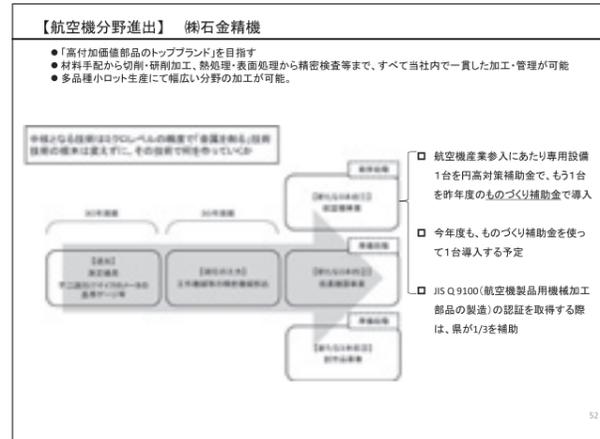
- 「石川県ニッチトップ企業等育成事業」認定企業(第13回:2006年)
- Nadcap(※) 認証取得に裏付けられた高い技術力。
- 全国唯一の県内中小企業の強い推進力による一貫受注生産体制。
※Nadcap:国際航空宇宙産業特殊工程認証プログラム

県内4社の企業が連携し、一貫生産体制を確立。顧客でもっとも求められる航空機部品を、高精度・高品質・高効率で提供。航空機産業の発展に貢献する「のびのび」の生産体制。

(出典)「HISCO(重機特集)」

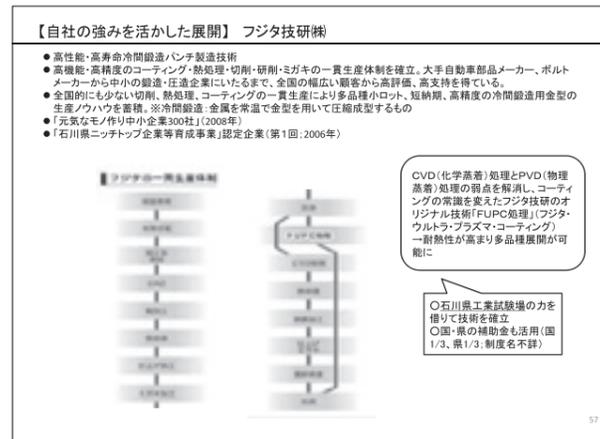
(株)石金精機は非常にカスタマイズの技術に強いところで、フラップ関係の油圧という非常に特殊な技術で

特別な注文を受けて参入している。参入にあたり、専用設備を1台は円高対策補助金で、もう1台をものづくり補助金で導入している。



②自社の強みを正確に把握し、それを活かせるような生き残り策を考えること。

フジタ技研(株)は高機能・高精度のコーティング技術の工程を一貫生産。コーティングの常識を変えた「FUPC処理」というオリジナル技術を開発し、特殊受注に応えている。新技術の確立には石川県工業試験場の力を借りている。



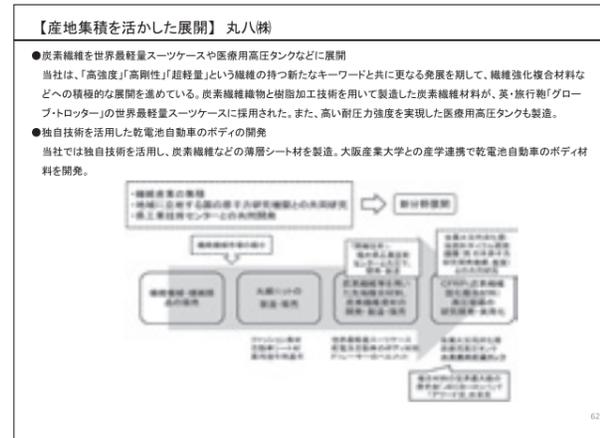
(株)高松メッキは眼鏡のめっき技術を活かし、金を部分的にめっき付けする技術を開発。この省資源型めっき技術により携帯電話用などの最先端電子部品をサポートしている。また、自社に不足する経営資源は大学や他社との連携で補完しており、腐食しやすい欠点があり用途が広がらなかったマグネシウム合金に対し、「新連携」制度を利用、他の中小企業等と連携し、新たな保護めっき技術を開発している。

③周辺の協力企業を巻き込んで、集積を活かす形で

の生き残り策を模索すること。

これは産地の力、地域の特色を活かして変革に対応していこうという事である。

繊維の産地型では、丸八(株)は炭素系繊維を用いた複合材料への積極的な展開を進めている。原子力研究機関との共同研究、工業技術センターとの技術共同開発により新分野への展開を図っている。



北陸にはたくさんの優れた産業集積があり、これを本質的なハイテクだったり文化だったり衣替えすることによって、強みを21世紀バージョンに作り替えていくことが大切である。

イタリアの織物産地では、インパトローレというコーディネーターが流行っているらしい。企業間の橋渡しから、糸染め、織りまで、工程ごとに最適なメーカーを選んでコーディネートする役割を担っている。どの産業のなかでもこのようなコーディネーターの発掘が活性化に繋がるであろう。人手は減っているが、うまく調整することにより、これからの製造業が実行していくべき方向性のパターンが見えてくるのではないだろうか。

本調査研究事業を進めるにあたり、4回開催した調査委員会の委員長である折橋様に中小企業の競争力構築と持続可能性についてご講演いただきました。

第2部 基調講演

「ものづくり中小企業の競争力構築と持続可能性」

東北学院大学 経営学部教授 折橋 伸哉 氏



中小企業の占めるウエイトの大きさ

我が国経済で中小企業の占めるウエイトは大きく、北陸地域は全国と比べて一際大きい。企業数ベースでの大企業のウエイトは、全国と北陸3県で比べると、全国は0.3%であるが北陸は0.2%に下がる。常用雇用者数ベースでは、中小企業のウエイトが北陸では格段に大きく、従業者総数ベースでは、非正規従業員やパートといった方々も含めての中小企業のウエイトが増えている。

このように、北陸地域における中小企業のウエイトは、全国と比べてもとりわけ大きいわけだが、北陸といってもすべて同じ傾向にあるわけではない。富山県は幾分大企業のウエイトが大きく、福井県は極めて小さい、そして石川県はその中間あたりといった傾向もみられた。

ものづくり企業が元気であり続けるためには？

営業力を鍛えるという点が極めて重要である。営業力を鍛えることで、主に得意先の顧客から将来の需要動向のヒントとなるような気づきを得ることが出来る。それを土台として、時代を先読みし果敢に先手を打つことがまず第1のポイントである。

この点に気付くヒントを与えてくれたのは、本調査研究事業の委員でもある武内プレス工業(株)である。同社は、顧客との信頼関係構築を最重要視している企業で、顧客との付き合いの中で新しいニーズや需要動向を汲み取り、自社の持つシーズに結びつけて実現を

図っている。そういった持ち前の強い営業力で、生み出されたアイデアを形にしつつ成長を続けてきた企業である。また、生産設備を自社で内製できる能力も持っている。

その背景は欧米からの設備の導入で、故障した際にダウンタイムが長くなり経営打撃が大きいということで、自前で修理・復旧できるようにエンジニアリング能力も磨いてこられた。宮城県内のある部品メーカーの場合は、地場に金型などの専門メーカーがなく、自前でやらざるを得なかったため、段々と業務範囲を広げていき、エンジニア能力を身に付けていったという背景がある。

第2のポイントは、自社の強みを正確に把握し自社の組織能力を進化させ、それを活かせる生き残り策を見出していくという事。東北の岩機ダイカスト工業(株)を例に挙げると、この企業の強みは取引先の業種に関わらずコア技術を研鑽しているということ。コア技術をダイカスト技術、金型設計技術と認識しており、提示された部品図面に対して図面と現物を見ながら金型設計や試作を独自に行える工程開発や提案能力を持っている。金型や製造プロセスを工夫することで既存品の3割から半分程度のコストカットを実現し、受注を重ねている。

ただし同社には課題もある。ひとつは創業者でありダイカスト技術に精通された前社長が金型設計などの中核的なアイデアを提示されている事。現在では金型設計自体は内部人材の育成が進み、前社長に頼ることなく出来るようになったが、革新を生み出す「エンジン」をいかに維持していくということが重要になって

..... 平成27年度 事業計画書

いる。また、津波の影響もあって立地先の山元町の人口減少が続いている。この町で必要な人材を果たして将来共に確保できるのか。これも大きな課題である。

第3は、地域の産業集積を活かして生き残り策を考えていくという事。東北で企業間連携によって自動車産業に参入しようという取り組みがあったので紹介する。岩手県北上市のプラスチック部品メーカー3社が共同で、2006年の7月に関東自動車工業(株)岩手工場向けに部品を受注した事例だが、ここで大事だったのが3社の社長たちの戦略的方向性を合わせることであった。中小企業の社長といえば一国一城の主であり、個性が強い方が多いが、ものづくりに精通した優秀なコーディネーターが間に入り、3人の社長のベクトルを同じ方向に向かせ、設計・金型・加工成形の3つの分野について分科会を設置して、現場担当者同士が相互に工場見学をした。2005年7月に、愛知県内の展示商談会に出展した事が自動車ビジネス本格化への契機となり、まだ受注できるか確信がない段階であったが、受注に先立って350トンクラスの射出成形機を導入し、自動車向けに受注するんだという強い意気込みを示した。結果、幸いにして関東自動車工業(株)岩手工場の部品を受注することができた。中小企業1社だけでは受注できないけれども、連携すればある程度まとまった大きな仕事も取れるという可能性を示している事例だと思う。

人材面での課題

全国どこの中小企業も抱えている課題といえば人材の確保である。少子高齢化、大都市圏への人口流出はなおも続いていて、知名度に劣る地方の中小企業にとっては量の確保自体ハードルが高い上、当然企業の成長には質も伴う必要がある。

では、人材育成の進め方だが、公的な産業振興機関がそれを担ってはどうかという意見があり、実際に各県で取り組みが行われている。宮城県に限ってみると公的機関の提供するメニューと中小企業側が求めるニーズが乖離しており、実態をあまり見ずに実施する

傾向があるようだ。研修に参加している間は、当然自社で仕事をしないので貴重な人手を取られてしまい、はっきりいって時間の無駄というような声も少なからず聞かれている。理想は各企業自体がOJTとOFFJTを適切に組み合わせながら社内で行うのが最も有効。ただし、中小企業にはそれだけの時間も余裕もないのが事実であり、もう少し現場の声を吸い上げて求められている支援メニューを提供する必要がある。加えて経営者自身も能力開発が必要である。以前、地場の中小企業が自動車産業に参入する上での人材面の課題をまとめたことがあり、それを説明すると、まずは現場作業員クラスの質・量両面の確保をどうするか。現場作業員クラスは、少子高齢化の進行が全国的に進み、東北地方でも若年人口が著しく減り続けている。採用の際に必要な人員数の半分も採れない、新卒や中途採用の募集をかけてもなかなか集まらない。東北地方のある地方都市でヒアリングした全てのメーカーでそのような悩みが聞かれた。またものづくり系を若干敬遠する、デスクワークやサービス業に就職したい、という就業意識の問題も深刻だ。ものづくり産業の魅力をどう若者に訴えていくかという点も非常に課題になってきている。そして、現場の中核人材の不足も深刻だ。具体的には、工場現場の運営について一定以上の経験を持っているベテランの方が定年などで現場から抜けた後、その穴埋めが十分にできていないというケースが少なからずあると推察される。さらに、エンジニアの供給体制が脆弱であるという課題もある。経営者の意識改革については、東北では、自動車産業の特性を正しく理解して、自動車産業に対して強い魅力を感じる経営者を開拓する必要がある。自社の将来について明確なビジョンを持ち、強力なリーダーシップでその実現を図ることのできる経営者が従来にも増して求められている。

中小企業が元気であり続けるためには、前項で述べた3つのポイントに加え、やはり最も重要なのは本項で述べた「人」であり、人材の問題をいかに解決するかが鍵である。以上4つのポイントをいずれも巧みにクリアしつつ、成長を図っていくことが求められている。

〈基本方針〉

我が国経済は、緩やかな回復基調にあるものの、消費税増税の影響で消費は足踏み状態である。北陸地域においては、新幹線開業による期待感はあるが、円安による資材価格の上昇が懸念されている。

当財団は、北陸地域(富山、石川、福井)の産業活性化及び活力ある地域経済を実現するための調査、研究や大学・企業等の研究助成、大学および公設試験研究機関のシーズ(研究成果)の紹介等、各種事業を実施してきた。

平成27年度については、上記の社会環境等を念頭に、これまでの公益事業を継続し、事業活動、支援活動を効果的に推進する。各種活動の一層の充実を図るため、これまで培った産・学・官とのネットワークを維持・活用すると共に、北陸経済連合会イノベーション推進事業部と情報交換を密にし、コンサルティング及び支援活動により、新規事業・新規産業の創出や異業種交流の促進を図り、地域経済の活力維持・発展に寄与することとする。また、これら社会環境変化等が当財団に与える影響を考慮し、各種活動にあたっては効果を重視しながらも、効率的な運用に努めることとする。

〈事業内容〉

1. 北陸地域の産業の活性化に関する調査、研究

(1)「北陸地域における中小企業の雇用」に関する調査及び研究

国の積極的な経済政策の実効により、国内企業の業績も回復してきており、中小企業の業況も持ち直してきている。一方、人口は減少してきており、少子高齢化社会となってきている。そのような中で、人手不足に関する問題が顕在化してきている。

北陸地域においても、平成26年度に当財団が北陸三県の中小企業を対象に行ったアンケートの設問(回答数224)でも、現在、人手が不足しているもしくは今後不足する懸念があると答えた企業は、約7割に達している。

少子高齢化に伴う労働者の減少や若者の大企業志向などの要因が推測されるが、本調査では、北陸の雇用の現状を把握するとともに、中小企業の人材確保、人材育成等についての方向性を探るとともに、雇用問題に対する必要な提言を行う。

(2)「北陸地域における産業観光の現状と課題」に関する調査及び研究

待望の北陸新幹線が開通し、北陸三県においては県をはじめ各自治体、経済団体、各種関係団体が効果を最大化するための各種活動を行っている。産業観光においても、三県の経済団体が中心となり、各県の産業遺産や産業施設の受け入れ体制等について活発な議論が交わされているところである。

産業観光を推進することは、集客による経済効果のみならず、ものづくり産業の活性化、集客交流に関わる幅広いサービス業の活性化などが可能になるほか、若年層にもものづくりの現場を体感してもらうことで、次世代のものづくり人材育成にも資するものである。

産業観光は観光交流による地域活性化、すなわち、雇用の創出・新たな産業の創出・人的交流による産業活性化など、従来の産業集積を生かしながら新たな産業振興を図る有力な方策として期待されている。これらの産業観光推進策について、全国大や北陸地域の各種政策支援を含めた現状や課題を調査・研究し、産業観光分野における今後の進むべき方向性を探るとともに、産業観光に対する必要な提言を行う。

2. 北陸地域の産業の活性化に関するプロジェクトに必要なコンサルティングおよび支援

(1)産・学・官との連携と支援活動

北陸地域における新規事業や新規産業創出に寄与するために、産学官の連携により、次世代自動車や次世代ロボットを始めとして、ライフケア、バイオ、ナノテク、炭素繊維等、北陸の優れた最先端技術でイノベーションを生み出し、新たなビジネスチャンスを作り上げる事業展開を支援する。また、産学官連携や異業種交流の支援に加え、企業・大学間等の技術シーズのマッチング等を支援する。

〔重点実施事項〕

- ・炭素繊維の具体的ターゲットの技術開発への支援
- ・BTLの事業化に向けた活動への支援
- ・旧北陸ものづくり創生協議会4研究会との連携及び支援
- ・社会を持続させる環境技術に関する支援

(2) 国等の事業への支援

国、地方自治体、独立行政法人、大学法人、経済団体、地域団体等が主催または実行委員会を組織して実

施する事業で北陸地域の経済・産業の活性化に寄与する事業について、共催、後援、協賛、補助等の支援を実施する。

(3) 技術アドバイス、コーディネート活動の充実

産学官連携による事業展開支援やマッチング等の各種支援を、より効果的に行うためにコーディネータによる各事業への技術アドバイスやコーディネート活動を展開する。

〔重点実施事項〕

- ・過年度R&D推進・研究助成採択事業のフォローと活動支援
- ・産学官連携機関との連携および支援

3. 健やかな少子高齢化社会の構築をリードする北陸ライフサイエンスクラスターの形成事業
〈文部科学省補助事業：地域イノベーション戦略支援プログラム〉

国際的な医療機器・医薬品・先端医用器具産業の形成、裾野の広い健康関連産業の創出のため、富山県・石川県・福井県の三県一体で国際的競争力を持つ継続的イノベーションを創出発展していくライフサイエンスクラスターを形成する。

当財団は、中核を担う総合調整機関として事業を推進する。

〔重点実施事項〕

- ・招へい研究者の研究課題の進捗管理と事業化支援活動
- ・コーディネータによる知のネットワーク構築活動
- ・国際競争力強化に向けた活動

4. 北陸地域の産業の活性化に関する研究に対する助成〔R&D推進・研究助成事業〕

新規事業・新規産業の創出に関する事業や企業間のマッチング事業などについて、企業が大学および公設試験研究機関などを行う共同研究や企業間の共同研究など、最先端のイノベーションに直結する事業について公募を行い助成事業を実施する。

5. 北陸地域の産業の活性化のための普及啓発

(1) 技術シーズ(研究成果)の発表会等の開催

産学官連携による研究開発を推進する一環として関係団体と連携し、独立行政法人等の技術シーズ(研究成果)について発表会等を開催して、北陸地域企業とのマッチングや当財団の活動について、理解を深めてもらう。

(2) 講演会・セミナー等の開催

北陸地域の産業活性化のための課題や当財団が実施した調査研究成果に理解を深めてもらうため、講演会・セミナー等を積極的に開催する。

(3) 会報誌の発行

当財団の各種調査、研究事業の成果や助成事業ならびに主催または共催した講演会、セミナー等について報告するとともに、産業活性化を目指す地域の取り組みなどを賛助会員および関係先等に広く紹介するため、会報誌を発行する。会報誌の制作にあたっては自主企画、立案、直接取材を基本に、親しまれる会報誌を目指す。

6. 情報提供事業

パンフレットの作成・配布やインターネットの当財団のホームページ等により、事業活動等各種情報のタイムリーな提供に引き続き努める。また、文部科学省、中部経済産業局、北陸経済連合会と情報交換を密にし、引き続き協調・連携体制を維持していく。

7. その他

当財団は、平成23年度に一般財団法人に移行した。「公益目的支出計画」に従い、公益事業活動を着実に実施するとともに、新産業や次世代産業創出など、北陸地域の産業活性化のための諸活動について、新たな視点で改善改革し、効果的、精力的に展開することとする。

業務の運営にあたっては、財団員間の情報の共有とコミュニケーションの充実により、意思の疎通を図り、コンプライアンス遵守、人権尊重のもと、一人ひとりの自律的な管理、チャレンジ、改善意欲を持って業務を行い、組織の目標達成のため邁進することとする。

以上

I. 事業内容

1. 北陸地域の産業の活性化に関する調査、研究事業
【継続事業1】

(1) 「北陸地域の製造業における中小企業の現状と課題」に関する調査及び研究〈自主調査〉

北陸には、企業経営や技術力において実力のある中小企業が数多く存在する。本調査研究では、いわゆる「元気な」中小企業は、どのような経営方針、設備投資、研究体制、人材育成、産学官金連携、補助金制度の活用を行っているか等を調査分析し、その結果を取りまとめた。

〈報告書の概要〉

・製造業の概況

県別の産業構成、付加価値額など統計データを分析して北陸地域における製造業の特徴を示した。北陸地域における域内生産に占める製造業比率は全国よりも高い。県別では富山で高く、石川は卸売・小売業やサービス業、福井は電気業の比率が高い。

・アンケート調査とヒアリング

北陸3県に本社を有する製造業中小企業を対象に、経営課題、新たな事業分野への展開、企業間連携、雇用や人材の確保・育成、公的機関等による支援策についてアンケートを実施した。また、優れた製造業の中小企業の中から、21社(内、北陸16社)を選定し、ヒアリング訪問取材を行い、各企業における課題への取り組み等を聴取した。

・企業が事業を継続していくには

データ分析、アンケート調査、ヒアリングの結果から、製造業の中小企業が事業を継続していく上で必要なことは、「時代を先読みし、果敢に先手を打つこと」、「自社の強みを正確に把握し、それを活かせるような生き残り策を考えること」、「周辺の協力企業も巻き込んで、集積を活かす形での生き残り策を模索すること」である。

A. 検討委員会

回	開催日	開催場所
第1回	平成26年 8月11日(月)	金沢市 ホテル日航金沢
第2回	平成26年10月 8日(水)	金沢市 金沢都ホテル
第3回	平成26年12月 9日(火)	金沢市 金沢都ホテル
第4回	平成27年 2月24日(火)	金沢市 金沢都ホテル

(2) 「北陸地域における農業分野の今後の方向性」に関する調査及び研究〈自主調査〉

農業従事者の高齢化や担い手の減少等が進み国内における農業の衰退が課題となっており、歯止めを掛けるべく、成長戦略をはじめとする政府の対策が進みつつある。

こうした取り組みは、農業事業者にとってはもちろんのこと、農業以外の企業(異業種経営体)にとっても、新たなビジネスやイノベーションを生み出す契機となる。

そこで、本調査では北陸地域農業の今後の方向性として、主に企業(異業種経営体)と農業の連携や協働に関し提言を行う。

〈報告書の概要〉

北陸地域農業の実態についてデータ収集及びインタビュー、アンケートにより整理を行い、それらを踏まえて企業サイドの農業への対応の方向性を検討した。

〈農業の概況〉

- ・北陸の農業は米中心であり、平均規模は小さい。
- ・米が中心の農業法人ではミドルクラスが減収減益と厳しい状況にあるが、大規模になると経営の安定性が見られた。
- ・野菜には企業参入が多い。典型は食品加工業が上流に展開するパターンである。

また、植物工場に生産性の改善が見られた。

〈まとめ〉

農業(農家)と企業が参入する関係を整理すると以下の3つの方向性が企業から見て有望である。

- ①企業が農業経営体から農産品を原料として購入、仕入れる。
飲食品工業のように原料として関係が深いケースは、企業が参入しやすいケースもある。企業と農業が連携・協働し、地域循環を実現することが望まれる(地域循環・六次産業化)。六次産業化、農商工連携に関しては、本調査において、農業法人の流通分野等への進出事例に加え、食品加工業者等、企業による生産(植物工場含む)への参入事例等も見られ、双方の立場から様々な形での農業を軸とする経営の多角化が進展していることが確認された。
- ②企業が農業経営体に技術(機械)を販売提供する。
企業技術の農業分野への展開が期待されるICT技術や植物工場等は、技術革新(イノベーション)と整理した。

③企業が農業に参入・支援する。

企業が農業に参入するケースは、直接参入するケースと、資金支援等、間接的に参入するケースに分かれる。大規模化の途上にある農業法人を支援することは、一定の投資効果が期待できる。

A. 検討委員会

回	開催日	開催場所
第1回	平成26年 7月15日(火)	金沢市 金沢都ホテル
第2回	平成26年 9月 4日(木)	金沢市 金沢都ホテル
第3回	平成26年11月17日(月)	金沢市 金沢都ホテル
第4回	平成27年 2月25日(水)	金沢市 金沢都ホテル

2. 北陸地域の産業の活性化に関するプロジェクトに必要なコンサルティング及び支援事業

【継続事業2】

(1) 産・学・官との連携と支援活動

A. コンバートEV実証車の開発

コンバートEVの事業化を目指し、当財団と北陸経済連合会が事務局となり、平成24年度に立ち上げた「コンバートEV事業化研究会」の活動として、研究会メンバーを招集しての情報発信・意見交換を2回実施した。

【平成26年度第1回コンバートEV事業化研究会】

福井県が平成25年度に取り組みを開始した次世代農業プロジェクトの進捗を報告した。このプロジェクトでは、小水力発電とコンバートEVを組み合わせ運用する実証試験を平成27年春に予定しており、この試験やその他の取組みへの研究会メンバーへの参加が呼びかけられた。

【開催日】平成27年1月8日(木)

【開催場所】金沢市 金沢都ホテル

【参加者数】17名

【平成26年度第2回コンバートEV事業化研究会】

事務局より、平成22年度から取り組んできたコンバートEV関連の事業を総括し、報告した。研究会メンバーからは、本事業の成果として、富山の企業でEV三輪車の生産が本格的に開始された事例や、研究会メンバーと本研究会のアドバイザーが共同開発した製品がある企業に採用された事例などが報告された。来年度の活動方針についても活発な議論が交わされた。

【開催日】平成27年3月18日(水)

【開催場所】金沢市 金沢都ホテル

【参加者数】13名

B. サステナブルテクノロジーセミナー

当財団では、今年度より、北陸地域において持続可能な社会を実現するための技術を見出し、企業や

大学の研究者に広く情報を提供し実用化を後押しすることを目的に、サステナブルテクノロジーセミナーを立ち上げた。今年度は、企業や大学でのヒアリング、東京で開催されたセミナー等で情報を収集し、資源小国の我が国が今後の競争力を維持するために必要な、環境技術・高効率機器に不可欠なレアメタルのリスク緩和手段の一つとして、レアメタルリサイクル技術を取り上げ下記のセミナーを開催した。

【第1回サステナブルテクノロジーセミナー

「求められるレアメタル回収技術とその背景」

【開催日】平成26年12月18日(木)

【開催場所】金沢市 金沢都ホテル

【参加者数】39名

【第1部：基調講演】

「レアメタルリサイクルの課題と戦略的都市鉱山研究拠点の展開～資源循環型社会を目指すSUREの取り組み～」

独立行政法人産業技術総合研究所

リサイクル基盤技術研究グループ長

SUREコンソーシアム 会長 大木 達也氏

【第2部：大学研究者からの研究紹介】

「廃棄物中レアメタルの新しい化学的湿式回収法」

金沢大学理工研究域物質化学系

教授 長谷川 浩氏

「ゼオライトの性能とレアメタル回収技術への展開」

金沢工業大学バイオ・化学部応用化学科

准教授 渡辺 雄二郎氏

「溶融・分相技術を用いた希少金属のリサイクル」

福井大学「地域イノベーション戦略支援プログラム」

特命助教 岡田 敬志氏

C. 次世代ロボット研究会

北陸の産業集積を活かし、北陸三県の大学・企業が有するロボット関連の知識・技術を結集させ、産業活性化を図ることを目的に、当財団と北陸経済連合会が事務局となり、平成23年9月に「次世代ロボット研究会・北陸」を発足し、活動を進めている。今年度の活動は以下のとおりである。

(A) 平成26年度第1回次世代ロボット研究会・北陸

一般社団法人日本機械学会主催による「ロボティクス・メカトロニクス講演会2014」にて、メンバー研究者3名が試作機を展示した。また、研究会メンバーが特別講演、ポスター講演、機器展示、ワークショップ等を聴講、見学した。

【開催日】平成26年5月26日(月)～28日(水)

【開催場所】富山市 富山市総合体育館

【展示内容】・北陸先端科学技術大学院大学：三次元走査装置
・金沢工業大学：壁面ロボット、ヘリコプターロボット
・福井工業大学：上肢リハビリ支援ロボット

(B) 平成26年度第2回次世代ロボット研究会・北陸

和倉温泉(株)加賀屋にて、「加賀屋のおもてなし」を聴講した後、接客時間を確保するために導入した設備「配膳用ワゴン搬送システム」を見学した。見学後はワゴン配送システムのメーカーと意見交換を行った。

【開催日】平成26年6月25日(水)

【開催場所】七尾市 (株)加賀屋

【講演】「加賀屋のおもてなし」

(株)加賀屋 帳場部支配人 藤森 公二氏

【参加者】34名

(C) 平成26年度第3回次世代ロボット研究会・北陸

研究会のメンバーが、澁谷工業(株)RMシステム森本工場を訪問し、再生医療関連事業の紹介や、大学との共同開発による細胞培養装置の開発等の説明を受けた。引き続き、双腕ロボットを組込んで一連の細胞培養工程を自動的に行う細胞培養システムの組立てや、ボトリングシステム組立の工場見学をするなど、ロボット技術の活用状況について理解を深めた。

【開催日】平成26年9月25日(木)

【開催場所】金沢市 澁谷工業(株)RMシステム森本工場

【参加者】20名

(D) 平成26年度第4回次世代ロボット研究会・北陸

第1部の研究会では、国が本年1月にとりまとめた「ロボット新戦略」について、中部経済産業局地域経済部次世代産業課長 瀬賀和也氏による説明および意見交換を実施。第2部は、講演会を実施。第3部は、研究会メンバー、講演会参加者による交流会を行い、ポスターセッションによるPRなど情報交換を行った。

【開催日】平成27年3月19日(木)

【開催場所】金沢市 金沢都ホテル

【参加者】62名

【第2部：講演会】

「農業用ロボットの研究開発の動向」

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター

小林 研氏

「高速道路における維持管理の現状と課題」

中日本高速道路(株)金沢支社

保全・サービス事業部長 河合 朝仁氏

【第3部：交流会】

ポスターセッション他

D. 「人工知能・スーパーコンピュータはここまで来た!」

北陸経済連合会イノベーション推進事業部と共催で、人工知能に関する講演会「人口知能・スーパーコンピュータはここまで来た!」を開催した。

ヒトゲノムの情報(30億文字相当)について、スーパーコンピュータを駆使して解析し、がん治療などの医療にも応用できることを講演した。

続いてIBMが開発した質問応答システムである人工知能「Watson」(ワトソン)の最近の動向について講演した。

【開催日】平成27年3月24日(火)

【開催場所】金沢市 金沢ニューグランドホテル

【参加者】62名

【講演】「がんとスーパーコンピュータ」

東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター 教授 宮野 悟氏

「学習するシステム Watson」

日本IBM株式会社 成長戦略ワトソン

担当理事 元木 剛氏

E. 研究会との連携

旧「北陸ものづくり創生協議会」のメンバーが継続している4研究会(ほくりく環境・バイオマス研究会など)と共同事業等を実施した。

(A) CFRP-PT (carbon fiber reinforced plastics : 炭素繊維強化プラスチック-プロジェクトチーム)

CFRPを用いた新たな材料開発のターゲットとして、防災・減災分野、住宅産業分野を対象に探索した。

【会議・検討会】

開催日	内容	開催場所
平成26年 4月23日(水)	全体会議・本年度活動(ターゲット市場調査)	財団会議室
平成26年 5月27日(火)	防災・減災分野のヒアリング	富山市射水郡富山県立大学(高橋、伊藤、古谷研究室)
平成26年 11月17日(月)	住宅産業分野のヒアリング	金沢市 大和ハウス工業(株)
平成27年 1月20日(火)	具体的ターゲットを検討	北国ビル会議室

(B) BTLワーキング (Biomass to liquidワーキング)
環境省「平成24年度地球温暖化対策技術開発・実証研究事業」のバイオマス・循環資源低炭素化技術開発分野分科会対象に採択された委託事業「生ゴミ・草本バイオマスの複合高効率メタン発酵の技術開発」が昨年度終了し、環境省に事後評価資料を提出し評価結果(5点/10点満点)を得た。また、富山市「バイオガスネットワークによるエネルギー循環システム」への参画を図った。
〔会議〕

開催日	内容	開催場所
平成26年5月23日(金)	全体会議。環境省に提出する資料の内容確認	金沢市 明和工業(株)
平成26年10月9日(木)	富山市、富山グリーンフードリサイクル(株)に対する実証研究結果の説明	富山市役所

(C) 北陸産業活性化フォーラム
「基調講演」および4研究会のメンバーによる「異分野連携交流会」を実施した。
〔開催日〕平成27年1月28日(水)
〔開催場所〕金沢市 金沢都ホテル
〔主催〕一般財団法人北陸産業活性化センター
〔共催〕NPO法人北陸ライフケアクラスター研究会、北陸マイクロナノプロセス研究会、ほくりく先端複合材研究会、ほくりく環境・バイオマス研究会
〔参加者〕88名
〔基調講演〕
〔演題〕「炭素繊維複合材料の現状と課題」
金沢工業大学 研究支援機構
顧問 金原 勲氏
「非鉄高機能新素材の動向」
富山大学大学院理工学研究部
教授 松田 健二氏
〔異分野連携交流会〕
〔出展社数〕23企業・団体

各研究会の活動のPRの場として、また異分野の業種が情報交換等を行う場として交流会を開催した。各研究会のメンバー・団体がブース出展し、事業活動や製品について紹介を行ったほか、各参加者が情報交換などを行った。

(2) 国等の事業の支援

国、地方自治体、独立行政法人、大学法人、経済団体、地域団体等が主催または実行委員会を組織して実施す

る事業で北陸地域の経済・産業の活性化に寄与する事業について、共催、後援、協賛等の支援を実施した。

- A. 北陸技術交流テクノフェア〔共催〕
当財団の概要や「R&D推進・研究助成事業」の概要と平成24年度の研究成果及び「北陸ライフサイエンスクラスター」事業を紹介した。
〔開催日〕平成26年10月16日(木)～17日(金)
〔開催場所〕福井市 福井県産業会館
〔主催団体〕技術交流テクノフェア実行委員会
- B. 2014年産業技術総合研究所中部センター研究発表会〔後援〕
〔開催日〕平成26年6月24日(火)～25日(水)
〔開催場所〕名古屋市 産業技術総合研究所 中部センター
〔主催団体〕独立行政法人産業技術総合研究所 中部センター
- C. 国際漆展・石川2014〔後援〕
・国際漆展・石川2014
〔開催日〕平成26年10月22日(水)～11月3日(月・祝)
〔開催場所〕石川県政記念しいのき迎賓館
・国際漆展・石川2014輪島展
〔開催日〕平成26年12月19日(金)～平成27年1月18日(日)
〔開催場所〕石川県輪島漆芸美術館
〔主催団体〕国際漆展・石川開催委員会
- D. しんきんビジネスフェア「北陸ビジネス街道2014」〔後援〕
〔開催日〕平成26年10月23日(木)
〔開催場所〕金沢市 石川県産業展示館 4号館
〔主催団体〕一般社団法人北陸地区信用金庫協会
- E. 第9回企業&NPO協働アイデアコンテスト〔後援〕
〔開催日〕平成26年12月16日(火)
〔開催場所〕名古屋市 名古屋商工会議所ビル
〔主催団体〕公益財団法人中部圏社会経済研究所

(3) 技術アドバイス・コーディネート活動

当財団の産学官連携コーディネーターが、産・学・官のマッチングを通じて課題を解決し、新規の成果に結びつけるべく活動を行った。企業、大学、自治体等から依頼を受けた案件については適切な相手先を紹介、またこれらを訪問し自ら発掘した技術シーズ・ニーズについては関心を持ちそうな相手先に提案を行った。当財団のR&D推進・研究助成に採択されたテーマのフォロー活動も行った。

コーディネート活動	件数	具体的内容・成果
依頼件数・提案件数	22件	
マッチング成立	17件	産学12件、産産1件、学学1件 産官 1件、学官2件
さらなる進展あり	7件	具体的成果に向け検討中

3. 文部科学省補助事業：地域イノベーション戦略支援プログラム【継続事業3】

(1) 「北陸ライフサイエンスクラスター」事業

文部科学省の地域イノベーション戦略支援プログラム(国際競争力強化地域)「健やかな少子高齢化社会の構築をリードする北陸ライフサイエンスクラスター」は2年度目を迎え、招へい研究者の研究開発が加速され、論文投稿、学会発表等が行われ、事業化に向けた試作品等のトライアルも進んできている。

当財団は総合調整機関として、プロジェクトディレクター(PD)、統括コーディネータ、地域連携コーディネータ(CD)等が、各参画機関との連絡を密にし、研究開発の進捗管理、事業化に向けた情報収集・提供、競争的外部資金の獲得に向けた活動を実施した。

A. 地域イノベーション戦略の中核を担う研究者の集積

「がんや生活習慣病」、「認知症」、「広汎性発達障害」といった疾病に関して、予防から診断、治療を行う先進技術を確認するため、大学や企業から以下の9テーマについて研究者を招へいして研究開発を展開するとともに、その事業化に向けた活動を展開した。

なお、平成25年度に実施していた研究テーマ「抗酸化物質(アスタキサンチン)による認知症予防機能性食品の開発」については研究者の招へいは終了し、独自で事業化推進の活動を進めている。

〔研究テーマ〕

- ・新規TLRリガンドを活用した自然免疫増強剤及び炎症抑制剤の開発
- ・生活習慣病の重症度を診断するメタボリックチップ開発に向けた基盤研究
- ・生活習慣病の発症・進展における新規ターゲットとしてのToxic AGEs (TAGE) の関与とその阻止
- ・健康長寿社会の実現に向けた革新的デバイスを用いたチップ型ナノバイオ計測システムの創成
- ・チタンの微細加工ならびに異なるチタン接合技術による生体適合性のよい外科用インプラントの作製
- ・陽子線癌治療における高度な照射法に対応した検証技術の開発
- ・ナトリウム利尿ペプチドを用いる新たな癌治療戦略

- ・代謝工学を用いた抗炎症剤の開発
- ・抗原特異的な抗体産生細胞新規同定法の開発とその応用

〔ラボミーティングの開催〕
各研究テーマの研究室を訪問し、研究開発の進捗状況、課題点等々について協議・調整を行うラボミーティングを順次開催した。

〔招へい研究者合同戦略会議〕

本プロジェクトの目的達成戦略を研究者、クラスタースタッフ全員で共有するとともに、各研究開発テーマの戦略を明確にし、研究開発テーマ間の交流によるシナジー効果を得るための議論を展開した。

〔開催日〕平成26年8月7日(木)～8日(金)

〔開催場所〕加賀市 湯〜とびあ山中

B. 大学等の知のネットワークの構築

研究開発の推進、事業化展開に向けて、研究開発の進捗管理、競争的外部資金の獲得、情報発信等々の活動を、富山県、石川県、福井県の各県担当者と連携を行いながら事業を推進した。

事業の進捗管理等のため、県、支援機関、クラスター推進室メンバーによるマンスリーミーティングを毎月開催し、事業推進等について協議・報告を行い情報の共有化、方向性の確認を行った。

特に、知のネットワークを構築するため、本事業がターゲットとしている「広汎性発達障害」、「認知症」、「がん・生活習慣病」についての域内の研究者、研究機関、関連企業、さらには企業や研究室を訪問して収集した技術シーズ等についてのデータベース(テクノマップ)を作成した。

〔競争的外部資金の獲得〕

競争的外部資金の獲得支援を行い、下記の研究開発資金等を獲得した。

- ・中小企業庁 小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業支援
- ・経済産業省 医工連携事業及び戦略基盤技術高度化事業
- ・科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業(CREST)
- ・武田科学振興財団助成金
- ・鈴木謙三記念医科学応用研究財団助成金
- ・富山県新世紀産業機構 産学官連携推進事業〔新商品・新事業創出枠〕
- ・いしかわ次世代産業創造ファンド 新技術・新製品研究開発支援事業
- ・福井県 大学連携リーグ連携研究推進事業

- ・北陸産業活性化センター R&D推進・研究助成金 等々
〈展示会出展等による情報発信〉
北陸ライフサイエンスクラスターの事業概要を広く紹介し、情報交換を行い、連携、交流を推進するため、展示会、シンポジウム等に出展した。
- (A) 福井県工業技術センター
一般公開医療産業進出企業の展示コーナーに出展
〔開催日〕平成26年4月17日(木)～19日(土)
〔開催場所〕福井市 福井県工業技術センター
- (B) ビジネス創造フェアいしかわ2014に出展
〔開催日〕平成26年5月15日(木)～17日(土)
〔開催場所〕金沢市 石川県産業展示館
- (C) BioJapan2014に出展
〔開催日〕平成26年10月15日(水)～17日(金)
〔開催場所〕横浜市 パシフィコ横浜
- (D) 北陸技術交流テクノフェアに出展
〔開催日〕平成26年10月16日(木)～17日(金)
〔開催場所〕福井市 福井県産業会館
- (E) 文科省地域イノベーションシンポジウムに出展
〔開催日〕平成27年2月18日(水)～19日(木)
〔開催場所〕福岡市 福岡大学
〈海外調査、情報収集、情報発信〉
国際競争力強化地域として積極的に活動を展開した。
- (A) 韓国 GMES2014
(Gangwon Medical Equipment Show 2014)
医療機器展示会－湧出商談会
〔訪問日〕平成26年4月30日(水)～5月1日(木)
〔訪問先〕大韓民国 江原道原州市
医療機器総合支援センター(MCC)
- (B) 韓国 大邱慶北先端医療複合団地視察、
GMES2014 Autumn
(Gangwon Medical Equipment Show 2014)
〔訪問日〕平成26年10月22日(水)～26日(日)
〔訪問先〕大韓民国 大邱広域市 大邱慶北先端医療複合団地、江原道原州市 原州医療機器テクノバレー
- (C) シンガポール、タイにおける医薬ビジネスに関する調査
〔訪問日〕平成26年10月26日(日)～29日(水)
〔訪問先〕シンガポール アジアメディカルセンター他、タイ 日本大使館他
〈会議、シンポジウム等の開催〉
事業推進に係る協議を行う会議やライフサイエンス分野の技術情報発信を行うシンポジウムを開催した。

- (A) 北陸ライフサイエンスクラスター推進協議会
平成26年度の活動状況報告を行うとともに、平成27年度の事業計画概要について説明し、了承を受けた。
〔開催日〕平成27年2月18日(水)
〔開催場所〕金沢市 金沢都ホテル
- (B) 外部評価委員会
平成26年度の活動計画、実施状況、研究成果の実用化について評価を受けるとともに、平成27年度計画に反映するためのコメント、アドバイスを得た。
〔開催日〕平成26年12月18日(木)
〔開催場所〕金沢市 金沢都ホテル
- (C) 国際技術動向調査ユニット
招へい研究者6名の各研究開発テーマについて、担当の地域連携コーディネータが研究の狙いなどを説明した後、各委員より国際的な観点から、知財、薬事法、マーケティング情報等、事業化に向けてのアドバイスを受けた。
〔開催日〕平成26年10月31日(金)
〔開催場所〕金沢市 北國ビル
- (D) 第2回北陸ライフサイエンスクラスターシンポジウム
「医療・医薬品産業の成長戦略 ～ライフイノベーションとグローバル化への取り組み～」
〔開催日〕平成26年7月25日(金)
〔開催場所〕富山市 パレプラン高志会館
〔参加者〕約75名
- (E) 第3回北陸ライフサイエンスクラスターシンポジウム
「医療・医薬品産業の成長戦略 その2 ～バイオ医薬品事業への取り組み～」
〔開催日〕平成27年2月5日(木)
〔開催場所〕富山市 富山電気ビルディング
〔参加者〕約70名
- (F) 第4回北陸ライフサイエンスクラスターシンポジウム
「再生医療の社会実装に向けて その2 ～北陸のものづくり企業はどのように再生医療事業に参入するか～」
〔開催日〕平成27年3月2日(月)
〔開催場所〕金沢市 石川県地場産業振興センター
〔参加者〕約90名
- (G) 第3回富山・バーゼル医薬品研究開発シンポジウムに参加〔後援〕
パネルを展示し、北陸ライフサイエンスクラスターの紹介をした。
〔開催日〕平成26年8月12日(火)
〔開催場所〕富山市 富山国際会議場
〔参加者〕約200名

- 〔主催団体〕第3回富山・バーゼル医薬品研究開発シンポジウム実行委員会
(富山県、一般社団法人富山県薬業連合会、富山大学)
- (H) 第15回北陸(日本)・韓国経済交流会議に参加
日韓両国の地域間の交流拡大の為に開催された会議に参加し、情報収集・企業間交流を進めるとともに、専門分科会「複合医療」のコーディネート・取りまとめを行った。
〔開催日〕平成26年9月17日(水)～18日(木)
〔開催場所〕七尾市 あえの風
〔参加者〕約200名
- (I) 医療現場ニーズ発表会〔後援〕
〔開催日〕平成26年10月21日(火)
〔開催場所〕富山大学附属病院
〔主催団体〕中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局
- (J) 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認知)キックオフ市民公開講座〔後援〕
〔開催日〕平成27年2月22日(日)
〔開催場所〕金沢市 北國新聞赤羽ホール
〔主催団体〕北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン
- (K) 医薬品分野 知的財産ワークショップin北陸〔後援〕
〔開催日〕平成26年9月2日(火)～平成26年11月5日(水)
〔開催場所〕ボルファート富山
〔主催団体〕中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局
〈他地域等との連携推進〉
知と医療機器創生宮城県エリア、ふくしま次世代医療産業集積クラスター、かがわ健康関連製品開発地域、徳島地域(世界レベルの糖尿病研究開発臨床拠点)等と連携の検討を行い、医療機器開発ニーズ・シーズ共有化等の連携推進に取り組んだ。
また、他地域との相互情報交流を進めることもあり、石川県臨床工学技士会と臨床現場の医療機器開発ニーズを発掘するための連携を行った。
- C. 地域における人材育成の取り組み
バイオ医薬品製造技術に関する人材教育プログラムについて、富山県立大学と連携して計画、実施した。
・生物工学系コース(バイオ医薬品の基礎と実際)7回シリーズ
平成26年9月17日(水)～平成26年10月29日(水)
・バイオ人材育成トレーニングコース
平成26年10月30日(木)～平成26年10月31日(金)

D. 研究設備・機器等の共用化
北陸地域の大学、公設試験機関等の医療機器、機能性食品等に設置されている試作・開発・評価のために利用できる機器を企業訪問やホームページにおいて広く紹介した。

4. 北陸地域の産業の活性化に関する研究に対する助成(R&D推進・研究助成)事業

【継続事業5】

企業・大学等の研究機関から、①エネルギー・②環境・③ものづくり・④製造技術・⑤地域活性化の5分野で案件を募集し、審査委員会にて厳正に審査し、助成対象者を決定した。交付決定通知書交付式では、併せて研究助成成果発表会を開催した。

〈審査委員会〉

〔開催日〕平成26年6月27日(金)
〔開催場所〕金沢市 金沢都ホテル
〔委員〕委員長 都築 明博
独立行政法人産業技術総合研究所中部センター 産学官連携コーディネータ ほか3名

(1) 応募件数と助成決定結果

応募件数	助成件数	助成金額
22件	7件	19,626千円

(2) 研究テーマと助成対象者

研究テーマ	申請者	助成金(千円)
細胞診検査における液状検体から効率的に細胞成分を回収することを目的とした凝集剤の開発	富山大学大学院医学薬学研究部 病理診断学講座 教授 井村 稔二	2,959
地域特産の藻場造成材を活用した輪島地区沿岸でのカジメ群落再生フィールド試験	金沢大学 理工研究域 教授 三木 理	3,000
低温プラズマによる粉粒体食品素材の殺菌・滅菌法の研究開発	金沢大学 理工研究域 サステナブルエネルギー研究センター 准教授 石島 達夫	3,000
酵母による代謝物製造技術を活用した新規機能性食品の開発	(株)TOPUバイオ研究所	2,682
多軸自在継手を用いた可変構造体に関する研究	北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助教 本郷 研太	2,000
免疫難病の治療を目指した天然薬物シーズによる創薬開発	富山大学大学院 医学薬学研究部(医学) 客員教授 高津 聖志	2,985
標準ファントムを用いた脳磁計評価法の最適化に関する研究	金沢工業大学 先端電子技術応用研究所 講師 小山 大介	3,000

〈交付決定通知書交付式・研究助成成果発表会〉

〔開催日〕平成26年7月31日(木)

〔開催場所〕金沢市 金沢都ホテル

〔成果発表〕

発表テーマ	発表者
「中皮腫の診断補助キットと診断アルゴリズムの開発」	(株)パソロジー研究所 取締役 堀 隆氏
「ホタルイカに含まれる生活習慣病予防成分の解明と応用」	富山短期大学 教授 竹内 弘幸氏

また、平成24年度の採択分について、成果報告を会報に掲載し、北陸技術交流テクノフェアで、成果報告のパネルを展示した。

5. 北陸地域の産業活性化のための普及啓発事業

【継続事業6】

(1) 講演会・セミナー等の開催

A. 中小・中堅企業新戦略展開講演会

北陸地域の中小・中堅企業における産業の活性化や新産業創出を図るため、産業構造転換や海外事業展開に詳しい講師を招請し、中小・中堅企業の新戦略展開の推進について講演いただき、北陸地域の産業界や経済界の今後の成長戦略について道筋を探るべく、講演会を開催した。

〔開催日〕平成26年10月24日(金)

〔開催場所〕金沢市 ホテル日航金沢

〔後援団体〕北陸経済連合会、北陸環日本海経済交流促進協議会

〔参加者〕33名

〔講演〕

「中小・中堅ものづくり企業の産業構造転換に対する課題と対応方向」

三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 政策研究事業本部 東京本部 経済・社会政策部 主席研究員 吉本 陽子氏

「中小企業の海外事業展開における課題と対応方針」

三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 政策研究事業本部 東京本部 経済・社会政策部 主任研究員 上野 裕子氏

B. 平成25年度調査・研究事業報告会

平成25年度に実施した2件の調査・研究事業の内容について、広く一般に周知するためそれぞれ報告会を実施した。

(A) 「北陸における観光産業の現状と課題」

北陸新幹線開業に伴う観光への影響と課題をテーマにした調査事業の報告会を実施し、九州や東北の先進地域の広域連携や経済効果等を発表した。

〔開催日〕平成26年6月5日(木)

〔開催場所〕金沢市 金沢都ホテル

〔主催〕一般財団法人北陸産業活性化センター

〔参加者〕84名

〔第1部：調査報告〕

一般財団法人北陸経済研究所 主任研究員

藤沢 和弘氏

〔第2部：基調講演〕

「北陸の観光産業の活性化に向けた北陸新幹線を核とした交通の充実」

〔講師〕

(株)ライトレール 代表取締役社長 阿部 等氏

〔第3部：パネルディスカッション〕

「北陸新幹線開業と北陸の観光産業の展望」

〔パネリスト〕

(株)ライトレール 代表取締役社長 阿部 等氏

立山黒部貫光(株)・立山貫光ターミナル(株)

常務取締役営業推進部長 永崎 泰雄氏

(株)日本旅行西日本営業本部

北陸営業部部長 大久保 範繁氏

一般財団法人北陸経済研究所 調査研究部

主任研究員 藤沢 和弘氏

(B) 「北陸地域における健康・医療・介護・福祉関連

産業の実態と将来展望」

標記調査・研究では、北陸地域のデータを統計的に処理・類型化し、北陸地域で高齢者が安心して暮らし続けられる社会のあり方を「北陸モデル」としてとりまとめ、大学の研究者や社会福祉法人運営関係者などから招聘した検討委員会において考察した。この成果が企業関係者や行政関係者に広く活用されるよう、報告会を開催した。

〔開催日〕平成26年7月3日(木)

〔開催場所〕金沢市 金沢都ホテル

〔主催〕一般財団法人北陸産業活性化センター

〔参加者〕67名

〔第1部：成果報告〕

「地域包括ケア時代の生活支援市場を展望する」

三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)

経済・社会政策部 社会政策グループ長

主任研究員 岩名 礼介氏

〔第2部：パネルディスカッション〕

〔パネリスト〕

富山大学 地域連携推進機構 地域づくり・文化

支援部門 教授 金岡 省吾氏

社会福祉法人射水万葉会 特別養護老人ホーム二

上万葉苑 施設長 安土 宗孝氏

(株)ほっとリハビリシステムズ 代表 松井 一人氏

三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 経済・

社会政策部 社会政策グループ長 主任研究員

岩名 礼介氏

(2) 技術シーズ(研究成果)の発表会の開催

A. 産業技術総合研究所「技術普及講演会」

北陸地域の産業の高度化や新産業の創出等の支援活動として、産業技術総合研究所中部センターの講師を招き同所のシーズを紹介した。

また、平成27年度の国の支援制度を中心に、中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局から施策の概要を説明した。

〔開催日〕平成27年3月13日(金)

〔開催場所〕富山市 アーバンプレイス

〔共催団体〕独立行政法人産業技術総合研究所中部センター

〔参加者〕43名

〔講演テーマ〕

【研究テーマ(講師：産業技術総合研究所)】

・高齢化対応型人工関節部材の開発

・産総研における生体吸収マグネシウムデバイスの取り組み

・心疾患患者を救命する補助循環血液ポンプの研究開発

【国の施策(講師：経済産業省中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局)】

・平成27年度 経済産業省関連施策の概要

(3) 情報提供事業

A. 会報の発行

会報91号(平成26年7月)、92号(平成26年11月)、93号(平成27年3月)を発行し、関係先に配布した。

B. ホームページによる情報発信

当財団のホームページを随時更新し、各種情報のタイムリーな提供を実施した。

・講演会、セミナーの開催案内

・R&D推進・研究助成事業の募集案内

・事業計画書、会報誌の掲載 ほか

C. パンフレットの発行

当財団の概要や事業などを紹介したパンフレットを作成し、周知活動に使用した。

6. 連絡会議等の開催

(1) 連絡会議

当財団の事業活動と意を同じくする全国の産業活性化センター及び地域技術センターと、それぞれの地域事情

や共通課題の解決に向けて、意見交換や交流を図った。

A. 第42回全国産業活性化センター連絡会議

〔開催日〕平成26年10月16日(木)～17日(金)

〔開催場所〕広島市 リーガロイヤルホテル広島

B. 全国地域技術センター連絡協議会

第1回 〔開催日〕平成26年8月29日(金)

〔開催場所〕東京都 霞山会館

第2回 〔開催日〕平成26年11月13日(木)～14日(金)

〔開催場所〕三重県 伊勢市

伊勢市観光文化会館

C. 第13回北陸・中部産業活性化センター連絡会議

〔開催日〕平成27年1月16日(金)

〔視察場所〕会宝産業株式会社

〔開催場所〕金沢市 ホテル日航金沢

(2) 賛助会員企業・団体連絡会

賛助会員企業・団体との情報交換を密に行うために、管理部門及び総務部門の代表の皆様に対し、事業計画や事業予算及び主要実施業務を説明し、当財団に対する理解と指導・支援を求めた。

〔開催日〕平成26年4月25日(金)

〔開催場所〕金沢市 ホテル日航金沢

〔出席会員企業〕10社

II. 総務事項

1. 理事会の開催

(1) 第12回理事会

〔開催日〕平成26年6月2日(月)

〔場所〕金沢都ホテル

〔出席者〕理事6名、監事1名

〔議案〕

第1号議案 平成25年度事業報告書(案)について

第2号議案 平成25年度財務諸表(案)及び監査報告書について

第3号議案 平成25年度公益目的支出計画実施報告書(案)及び監査報告書について

第4号議案 一般財団法人北陸産業活性化センター定款の一部追加(案)について

第5号議案 新任理事の選任(案)について

第6号議案 平成26年度 第11回評議員会の開催(案)について

(2) 第13回理事会

〔開催日〕平成27年1月14日(水)

〔場所〕ホテル日航金沢

〔出席者〕理事6名、監事1名

- 〔議案〕
 第1号議案 「国補助金獲得時の北陸産業活性化センターの組織体制(案)」について
 第2号議案 「平成26年度臨時評議員会開催(案)」について

(3) 第14回理事会

〔開催日〕平成27年3月9日(月)
 〔場所〕金沢都ホテル
 〔出席者〕理事7名、監事2名

- 〔議案〕
 第1号議案 平成27年度事業計画書(案)について
 第2号議案 平成27年度収支予算(案)について
 第3号議案 平成26年度第13回評議員会の開催(案)について
 第4号議案 地域再生計画に関する事項(案)について

2. 評議員会の開催

(1) 第11回評議員会

- 〔開催日〕平成26年6月27日(金)
 〔場所〕金沢都ホテル
 〔出席者〕評議員4名
 〔議案〕
 第1号議案 平成25年度財務諸表(案)及び監査報告書について
 第2号議案 平成25年度公益目的支出計画実施報告書(案)及び監査報告書について
 第3号議案 一般財団法人北陸産業活性化センター定款の一部追加(案)について
 第4号議案 新任・交代の評議員及び理事の選任(案)について

(2) 第12回評議員会

〔開催日〕平成27年1月26日(月)
 〔場所〕ホテル日航金沢
 〔出席者〕評議員5名
 〔報告〕北陸ライフサイエンスクラスターの状況報告他

(3) 第13回評議員会

- 〔開催日〕平成27年3月17日(火)
 〔場所〕金沢都ホテル
 〔出席者〕評議員8名
 〔議案〕
 第1号議案 平成26年度事業計画書(案)について
 第2号議案 平成26年度収支予算(案)について

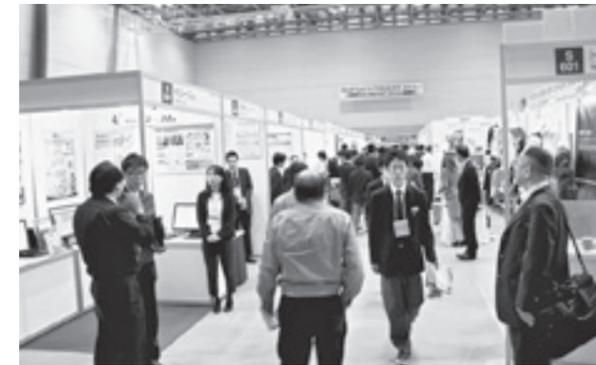
3. 業務及び財産状況の検査
 平成26年5月28日 監事監査
4. 登記事項
 平成26年7月29日 一般財団法人変更登記 評議員及び理事の変更
5. 内閣府への認可申請・届出事項
 平成26年6月27日 公益目的支出計画実施報告書
6. 定款の一部変更
 平成26年6月27日
7. 労働基準監督署届出事項
 平成26年 4月 7日 就業規則(職員・嘱託職員・嘱託管理職員、他関係規則)変更届
 平成26年 4月22日 就業規則(職員・嘱託職員・嘱託管理職員)変更届
 平成26年 7月25日 時間外労働・休日労働に関する協定届
 平成26年11月12日 就業規則関係規則変更届
 平成27年 2月10日 就業規則(嘱託職員・嘱託管理職員)変更届

以上

「富山県ものづくり総合見本市2015 ～とやまとつながる新たな世界～」に出展

- ◇開催期間：平成27年4月23日(木)～25日(土)
 ◇開催場所：富山産業展示館(テクノホール)、富山市体育文化センター(富山市友杉)
 ◇主催：富山県ものづくり総合見本市2015実行委員会

北陸ライフサイエンスクラスター事業の紹介を広く行うとともに、情報収集、交流を行うため出展した。



会場風景



展示ブース

「ビジネス創造フェアいしかわ2015 ～未来にかがやく、石川の技術～」に出展

- ◇開催期間：平成27年5月14日(木)～16日(土)
 ◇開催場所：石川県産業展示館2号館(金沢市袋島町南193)
 ◇主催：公益財団法人石川県産業創出支援機構

北陸ライフサイエンスクラスター事業の紹介を行うとともに、情報収集、企業等との交流を推進するため出展した。MEX金沢(第53回機械工業見本市金沢)、e-messe kanazawa 2015も同時開催され、多くの来場者でにぎわった。



会場風景



展示ブース

石川県臨床工学技士会学術集会にて 北陸ライフサイエンスクラスターの事業紹介

- ◇開催日時：平成27年5月17日(日)
- ◇開催場所：石川県立中央病院
健康教育会館2階 大会議室

医療機器開発を推進するため、臨床現場で医療機器の操作・管理を行っている、臨床工学技士から医療機器開発に関するニーズを提案してもらい、事業化に向けたマッチングを行っていくこととし、臨床工学技士の会合で、北陸ライフサイエンスクラスターの紹介を行うとともに、医療現場からのニーズ提案を依頼した。



第5回 北陸ライフサイエンスクラスターシンポジウム『機能性食品・健康食品産業の成長戦略～新たな食品の機能性表示制度にどのように対応するか?～』を開催

- ◇開催日時：平成27年6月2日(火)
- ◇開催場所：福井県国際交流会館3階 特別会議室
- ◇主催：一般財団法人北陸産業活性化センター 北陸ライフサイエンスクラスター推進室
- ◇共催：公益財団法人ふくい産業支援センター、北陸ライフサイエンスクラスター推進協議会
- ◇参加人数：80名

平成27年4月に、新たな食品の機能性表示制度が施行され、科学的な根拠があれば、製造・販売する企業等の責任で、食品への機能性表示が可能となり、機能性食品市場の更なる拡大が見込まれる。機能性食品・健康食品事業者等が今後の成長戦略を展開する資とするため、新たな食品の機能性表示制度にどのように対応するかを考えるシンポジウムを開催した。

[プログラム]

(1) 基調講演

「新たな食品の機能性表示制度への企業の対応
～臨床試験によるヘルスクレームの取得について～」

株式会社TTC 代表取締役社長 山本 哲郎 氏

(2) 講演

「国内企業4社の機能性食品・健康食品事業への取り組み」

株式会社カネカ QOL事業部 幹部職 藤井 健志 氏

富士化学工業株式会社 研究開発本部 本江 信子 氏

株式会社福光屋 常務取締役 松井 圭三 氏

ナツメ研究会 福井県立大学生物資源学部 講師 川畑 球一 氏



産業技術総合研究所技術普及講演会

- ◇開催日：平成27年3月13日(金)
- ◇開催場所：アーバンプレイス
- ◇参加人数：43名

独立行政法人産業技術総合研究所中部センターとは共催で、標記講演会を開催しました。産業技術総合研究所の研究・技術シーズを広く普及するために毎年開催しています。今回は産業技術総合研究所の3つの研究テーマについて発表があり、併せて中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局から平成27年度経済産業省関連の施策についてご説明いただきました。

最後にポスターセッションを行い、産業技術総合研究所の技術シーズのPRや参加者との意見交換を行いました。

発表テーマ

- ・高齢者対応型人工関節部材の開発
- ・産総研における生体吸収マグネシウムデバイス開発の取り組み
- ・心疾患患者を救命する補助循環血液ポンプの研究開発



講演会



ポスターセッション・意見交換

平成26年度 第2回コンバートEV事業化研究会を開催

- ◇開催日：平成27年3月18日(水)
- ◇開催場所：金沢都ホテル
- ◇参加人数：13名

北陸経済連合会イノベーション推進事業部と共催で、標記研究会を開催しました。

本研究会では、コンバートEV事業化研究会の5年にわたる活動の総括を当財団の常山産学官連携コーディネーターから報告しました。研究会メンバーからは、本事業の成果として、富山の企業でEV三輪車の生産が本格的に開始された事例や、研究会メンバーと本研究会のアドバイザーが共同開発した製品がある企業に採用された事例などが報告されました。

また来年度のコンバートEV事業化研究会の活動方針に関して、参加者から率直な意見が出され活発な議論が行われました。



■ 平成26年度 第4回次世代ロボット研究会

- ◇開催日：平成27年3月19日(木)
- ◇開催場所：金沢都ホテル
- ◇参加人数：62名

北陸経済連合会イノベーション推進事業部と共催で、標記研究会を開催しました。

第1部の研究会では、国が本年1月にとりまとめた「ロボット新戦略」について、瀬賀和也氏(中部経済産業局地域経済部次世代産業課長)に概要及び関連の助成制度などについて説明いただき意見交換を行いました。

第2部は、2つの講演会を実施しました。最初の講師の小林氏には、日本の農業の現状と国の施策およびGPSを使ったロボットトラクターなど農業用ロボットの研究開発の状況を講演していただきました。2人目の講師、河合氏は、高速道路で人が近づくことができない点検場所でのロボットによる支援の可能性などロボット開発への期待について講演いただきました。

また第3部では、研究会メンバー、講演会参加者による交流会を行い、ポスターセッションによるPRなど情報交換を行いました。



[プログラム]

第1部 研究会

第2部 講演会

- ・講演1：農業用ロボットの研究開発の動向

講師：(独) 農業・食品産業技術総合研究機構
生物系特定産業技術研究支援センター 小林 研氏

- ・講演2：高速道路における維持管理の現状と課題

講師：中日本高速道路(株)金沢支社 保全・サービス事業部長 河合 朝仁氏

第3部 交流会



講演される小林氏



交流会

■ 講演会「人工知能・スーパーコンピュータはここまで来た！」

- ◇開催日：平成27年3月24日(火)
- ◇開催場所：金沢ニューグランドホテル
- ◇参加人数：62名

北陸経済連合会イノベーション推進事業部と共催で、標記講演会を開催しました。

宮野氏は、ヒトゲノムの情報(30億文字相当)について、スーパーコンピュータを駆使して解析し、それががん治療などの医療にも応用できることを講演しました。続いて元木氏はIBMで開発した質問応答システムである人工知能「Watson」(ワトソン)の最近の動向について講演しました。



- ・講演1：「がんとスーパーコンピュータ」

講師：東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター 教授 宮野 悟氏

- ・講演2：「学習するシステムWatson」

講師：日本IBM株式会社 成長戦略Watson担当 理事 元木 剛氏

■ 講演会「インダストリー4.0およびIoTの最新動向と展望」

- ◇開催日：平成27年5月25日(月)
- ◇開催場所：富山県民会館
- ◇参加人数：115名

北陸経済連合会イノベーション推進事業部と共催で、標記講演会を開催しました。

足立氏は、現在、ドイツで取り込まれ「第4次産業革命」ともいわれている「インダストリー4.0」の状況について、取り組みに至る経済構造やドイツの先進企業の取り組みについて講演されました。また、河田氏は、三菱電機(株)のICTを活用した生産技術について講演されました。



- ・講演1：「次世代製造業の新しい潮流 ―ドイツの取り組みを踏まえながら―」

講師：(株)野村総合研究所 新会社設立準備室 上席専門スタッフ 足立 興治氏

- ・講演2：「e-F@ctory モノづくりの将来像とFA統合ソリューション」

講師：三菱電機(株)名古屋製作所 e-F@ctory推進プロジェクトグループ 主管技師長 河田 薫氏

■ 平成26年度調査・研究事業報告会「北陸地域における農業分野の今後の方向性」

平成27年6月8日(月)、金沢都ホテルにて標記報告会を開催しました。最初に、(株)日本経済研究所 常務執行役員 佐藤淳 氏より農業の概況やアンケート結果をもとに農業の実態と今後の方向性について調査報告していただき、次に、東北大学大学院 農学研究科教授 伊藤房雄 氏より6次産業化の課題など、これからの農業の展開方向についてご講演いただきました。引き続き、同調査に委員としてご協力いただいた方をパネリストとして迎え、パネルディスカッションを行いました。 ※詳細は次号掲載予定です。



■ 賛助会員企業・団体連絡会

- ◇開催日：平成27年4月23日(木)
- ◇開催場所：金沢都ホテル
- ◇参加者：賛助会員企業14名、事務局



当財団の事業についてご理解いただき、さらに今後の活動の参考にするべく賛助会員との意見交換の場を設けています。事務局から平成27年度の事業計画や平成26年度の実施業務について説明を行い、出席者からR&D推進・研究助成や調査研究事業についての質問や要望などをいただき、事務局と積極的な意見交換を行いました。

■ 第14回理事会

- ◇開催日：平成27年3月9日(月)
- ◇開催場所：金沢都ホテル
- ◇参加者：理事7名、監事2名ほか事務局

平成27年度の事業計画及び予算や地域再生計画に関する事項について審議したほか、平成26年度の実施業務について報告をしました。



第14回理事会

■ 第15回理事会

- ◇開催日：平成27年6月8日(月)
- ◇開催場所：ホテル日航金沢
- ◇参加者：理事8名、監事2名ほか事務局

平成26年度事業報告・決算、公益目的支出計画実施報告について審議を行いました。

■ 第16回理事会

- ◇理事会の決議があったものとみなされた日：平成27年6月26日(金)

会長、専務理事及び常務理事兼事務局長の選任(案)について書面決議を行いました。

■ 第13回評議員会

- ◇開催日：平成27年3月17日(火)
 - ◇開催場所：金沢都ホテル
 - ◇参加者：評議員8名ほか事務局
- 平成27年度の事業計画及び予算について審議・決議を行いました。



■ 第14回評議員会

- ◇開催日：平成27年6月24日(水)
 - ◇開催場所：ホテル日航金沢
 - ◇参加者：評議員5名ほか事務局
- 平成26年度決算、役員交代について、審議・決議を行いました。

第14回評議員会・第16回理事会を踏まえ、このたび交代になった役員は以下の通りです。

	新任(6月26日)		退任(6月24日)	
代表理事	久和 進	北陸電力株式会社 代表取締役会長	永原 功	北陸電力株式会社 代表取締役会長
理事	麦野 英順	株式会社北陸銀行 代表取締役会長	犬島伸一郎	株式会社北陸銀行 特別参与
監事	前田 純一	株式会社北國銀行 代表取締役専務	村上 良平	北国総合リース株式会社 代表取締役社長

■ 財団の行事一覧

平成27年3月～平成27年6月

3月 2日(月)	【北陸ライフサイエンスクラスター】 第4回シンポジウム「再生医療の社会実装に向けて その2 ～北陸ものづくり企業はどのように再生医療事業に参入するか～」	金沢市
3月 9日(月)	第14回理事会	金沢市
3月13日(金)	産業技術総合研究所 技術普及講演会	富山市
3月17日(火)	第13回評議員会	金沢市
3月18日(水)	第2回コンバートEV事業化研究会	金沢市
3月24日(火)	講演会「人工知能・スーパーコンピュータはここまで来た！」	金沢市
4月20日(月)～5月22日(金)	平成27年度R&D推進・研究助成公募	
4月23日(木)	賛助会員企業・団体連絡会	金沢市
5月25日(月)	講演会「インダストリー4.0およびIoTの最新動向と展望」	富山市
5月26日(火)	平成26年度監事監査	財団内
6月 2日(火)	平成26年度調査・研究事業報告会「北陸地域の製造業における中小企業の現状と課題」	金沢市
6月 8日(月)	第15回理事会	金沢市
6月 8日(月)	平成26年度調査・研究事業報告会「北陸地域における農業分野の今後の方向性」	金沢市
6月24日(水)	第14回評議員会	金沢市

7月以降の行事予定

7月 3日(金)	R&D推進・研究助成審査委員会	金沢市
7月10日(金)	全国地域技術センター連絡協議会 第1回事務連絡会	東京都
7月28日(火)	R&D推進・研究助成 研究助成金交付決定通知書交付式・成果発表会	金沢市
10月8日(木)～9日(金)	北陸技術交流テクノフェア2015	福井市

※当財団では、行事のご案内を随時ホームページでご紹介しております。是非ご覧下さい。

株式会社北國銀行

創業 大正15年2月26日旧加能合同銀行
明治25年2月25日旧加州銀行
昭和13年9月7日旧能和銀行
昭和18年12月18日現株式会社北國銀行
所在地 金沢市広岡2丁目12番6号
資本金 26,673百万円（銀行全体）

従業員 1,780名
ホームページ <http://www.hokkokubank.co.jp/>
事業内容
・預金業務、貸出業務、商品有価証券売買業務、
有価証券投資業務、内国為替業務、外国為替業務、
社債受託及び発行・支払代理人業務、附帯業務



取締役兼執行役員
総合企画部長兼人材開発室長
中村和哉氏

地域に親しまれ愛される「北國ブランド」の確立を目指す(株)北國銀行にお話を伺います。

—御社について教えてください

北前船の船主として小松市安宅で廻船問屋を営んでいた米谷家の7代目米谷半平が、物流の主役が鉄道に移る変化を察知し明治24年加賀に米谷銀行を設立したのが「北國銀行」のルーツです。その後戦時下で行われた一県一行政策により、昭和18年加能合同銀行、加州銀行、能和銀行が合併し「北國銀行」が誕生しました。以降、健全経営をモットーに安定的な資金供給、強靱な経営体質のもと地域に貢献してまいりました。銀行の規模は地方銀行の中では中位ですが、健全性を示す「自己資本比率」は上位を維持し、今年4月には新中期経営計画「NEXT QCS'S (Qシーズ)」をスタートさせ、新たな挑戦・自らの変革とともに、真のコンサルティング機能の発揮を軸に据え、地域の課題解決に積極的に取り組んでまいります。

—新本店、新基幹システムになりましたが

創立70周年の節目に本店を新築移転し、今年の1月には新基幹システム「BankVision」への移行も無事終わり、地域の皆様により質の高いサービスを提供し、ともに発展していく重要な基盤作りが出来ました。東日本大震災後、BCPの観点から新システム導入・本店移転を決めました。新システムは2システムのクラウドから成り、万一の災害によるシステムダウンからの復旧時間の短縮



新本店銀行窓口



新本店ロビー

や低コストで迅速なシステム開発も可能となり今後新商品・新サービスのタイムリーな提供ができるようになります。

また、耐震構造になった新本店ビルは生産性の向上・快適な職場環境も実現、全行員に一人一台Microsoft Surfaceを配布し、仕事場でも会議でも自由に持ち歩けることができる新しいワークスタイルを確立しました。



新IT基盤Surface

—地方創生に向けた取組みを教えてください

地域密着型金融の取組み方針を策定し、地域の企業支援に力を入れています。当行全体でビジネスマッチングやお客さまの経営課題解決の支援などサポート体制を強化しております。ITの活用を促し、人員を派遣して収益改善を図るなどお客さまとともに考え行動しております。

また、石川県内の企業が出店する地域版情報&ショッピングサイト「れじおん」のサービス提供に協業しております。各種有益な情報が満載で当行では取引先企業へ利用を促進しています。

海外進出をお考えのお客さまには、海外進出する際に必要となる情報のご提供や販路拡大につながる商談会等の開催など幅広くご支援しております。シンガポールには駐在員事務所がありますが、これを支店とするべく現在認可の申請を出しております。支店になれば地方銀行では初めてのことで銀行業務や融資ができるようになりますので現地でさらなるサポート・支援を行うことができます。